

インターバンクの声（2016年10月27日）

25日のニューヨーク市場で約3ヶ月ぶりの105円回復に近づいた円相場だったが、ドルの上値は思ったよりも重く、反落後は一転104円割れを試しにかかるような動きも見られた。昨日の東京市場の朝、ロンドン市場の昼前、そしてニューヨーク市場の昼前にそれぞれ104円を割るまであと数銭というところまで売られたが、この水準ではドル買いの動きが活発化した。新たなドル買いに加え、104円台後半でドルを売っていたような人達も104円割れが難しそうだと判断するや、一斉に買戻しに動いていたようだ。また、前日はドル売りのきっかけにもなった米マークイット社の経済指標（サービス業PMI）が昨日は強い数字となり、米石油在庫統計が在庫減少になりそうだと情報がタイミング良く流れて来たのも買いやすくなったようだ。その後も米新築住宅販売件数の増加や50ドルを割っていたニューヨーク原油が50ドル台に値を戻すなど、ドルが104円台中盤まで戻してニューヨーク市場を終えている。明日発表の米第3四半期GDP(速報値)は注目だが、月末に掛かってくるのを理由に取引が手控えられる可能性もあり、結局は雇用統計待ちになってしまうかも知れない。

提供：SBIリクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。